

今日のトピック 米国の金融政策（2016年7月）

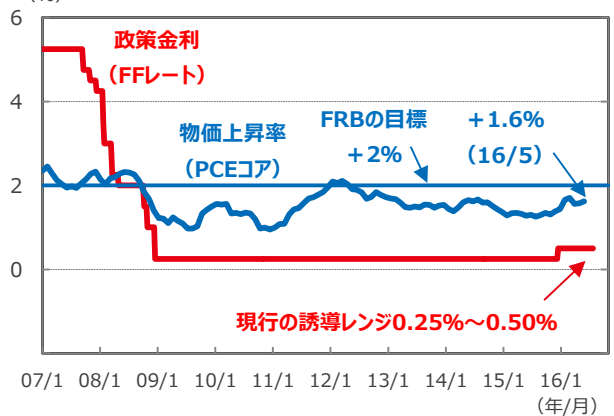
短期的なリスクは後退、政策金利は据え置き

ポイント1 政策金利を据え置き

短期的リスクは後退

- 7月26日、27日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）は、市場の予想通り政策金利（FFレート）の誘導レンジを0.25%～0.50%で据え置くことを決定しました。
- 声明文は、「経済は緩やかに拡大し、労働市場も力強さを増した」と指摘し、景気見通しに対する「短期的なリスクは後退した」と述べました。
- 金融政策の先行きについては、「緩やかなペースで利上げを継続する」との意向を改めて表明しましたが、利上げの具体的な時期は明らかにせず、「引き続き海外経済と金融市場の動向を注視する」と述べるに止めました。

政策金利と物価上昇率の推移



(注1) FFレートは2007年1月5日～2016年7月27日。2008年12月以降のFFレートは誘導レンジの上限を表示。
 (注2) 物価上昇率は2007年1月～2016年5月。PCE（個人消費支出）コア物価指数の前年同月比。
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 債券相場は上昇 株価や米ドルは下落

- 声明文の公表後、米10年国債利回りは低下しました。利上げのペースが緩やかなものになることが、改めて確認されたからです。一方、米株市場はFOMC終了直後に上昇しましたが、引けにかけて利益確定の売りに押され、値を消しました。米ドルも声明文の「リスク後退」を好感してFOMC直後に買われたものの、全体としてタカ派的な内容ではなかったため、間もなく下落に転じました。

FOMC参加者の経済見通し(2016年6月時点)

項目	2016年	2017年	2018年
GDP成長率 (%)	2.0	2.0	2.0
失業率 (%)	4.7	4.6	4.6
物価上昇率 (%)	1.7	1.9	2.0
FFレート (%)	0.9	1.6	2.4

(注) FOMCメンバー予測の中央値。GDPと物価上昇率は第4四半期の前年同期比。物価上昇率はPCE（個人消費支出）コア物価指数の上昇率。見通しの時点はFOMCの開催月。

(出所) 米連邦準備制度理事会（FRB）の資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 緩やかなペースでの利上げ、金融資産に有利な環境が続こう

- 米景気は物価安定の下で緩やかな拡大を持続する見通しです。FOMCは英国の欧州連合離脱選択の影響や米大統領選挙の結果などを見極めたくて、今年末に利上げを実施すると予想されます。
- 物価安定の下での緩やかな景気拡大、企業収益の改善を背景に、株価は堅調な推移が見込まれます。利上げペースが緩慢と予想されることから、国債利回りも当面、落ち着いた動きになると考えられます。

ここもチェック! 2016年7月27日 「労働市場」の改善は進んでいる? (米国) 2016年7月15日 安定成長を示唆する「ページブック」(米国)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。